

PACK ON

2014-2015 No.21

岡山細胞検査士会会報

CONTENTS

締め切りはつらいよ！

●前口上

お題は「春になれば」

●新人さん、いらっしゃい！ 2013・2014年度

特別なエールをあなたにあげる、あったかいんだから～

●リレー他己紹介「岡山済生会総合病院」

あなたに教えたいこの1冊

●コラム・うちの本棚 Vol.15

PCオタク K's Presents

●コンピュータ・ワンダーランド 2014年度版

好評連載

●宮尾行雄の ウンチク三昧 今回のお題「人体解剖と日本語」

帰ってきた大講釈

●超個人的マンガ論 『ガラスの仮面』論・第1回

昨年度を振り返って

●岡山細胞検査士会・平成26年度行事のまとめ



岡山細胞検査士会会員 各位

綱紀肅正について

本会は、次年度で創立20年を迎えることとなります。会員各位におかれましては、日々、医療技術向上にご尽力いただいているかと存じます。しかし、綱紀肅正に反する事例の発生は、臨床検査技師、さらには細胞検査士に対する国民の信頼性を著しく損なわせる結果を招き、同じ職名を有する多くの謹厳実直な臨床検査技師、細胞検査士、またこれらを志す者全体を嘲弄する行為にほかならず、誠に遺憾であります。

すべての医療は、信頼をもとに成立します。そして、失われた信頼は、軽々に取り戻せるものではないことを私たちは心に刻んでおかねばなりません。会員各位におかれましては、今一度、医療従事者の一人として原点に立ち返り、国民、県民に対してあらためて我々の職務や職名、活動についての信頼を回復するため、職務内は無論のこと、職務外においても常日頃から医療人としての自覚ある行動に努めていただきたく存じます。

平成27年1月29日

岡山細胞検査士会 会長 井上 博文

前
口
上

「お金はお金があるところに集まってくる」なんてな話をよく聞くことがあるが、「締め切り」も同様である。「締め切りは、締め切りがあるところに集まってくる」のだ。

人間は、締め切りに先んじて余裕をもって事をこなすタイプと、締め切りすれすれでねじ込むタイプ、また、ほぼ締め切りを守らないタイプに分類できるが、頻度的には、「すれすれねじ込み型」が多いように見受けられる。かく言う私も、今まさにすれすれねじ込みでこの文章を書いているわけである（今日が締切、ただいま朝の通勤電車の中で打ち込み中）。いやはや何とも…。

10年ほど前に一度、1週間くらいの間で締め切りが6本ほど集中して押し寄せてきたことがあった。まあ自分がぐずぐずしていて締め切りが残っていたところに、追加でいくつか舞い込んだ急ぎの依頼をホイホイ引き受けたがための惨状で、今思い返してもどうやってしのいだのか、不思議である。ただ、一度こういう経験をしておくと、2本や3本の締め切りが集中したくらいではびくともしなくなることは確かだ（お薦めはできないけど）。

締め切りに追われるのは、つらいことには違いないが、かといって悪いことばかりでもない。自分の経験では、追われている間中、どんなに睡眠時間が短かろうと、どんな寝方（そこからへんに転がってちょっとだけ仮眠、みたいな）をしようと、まず風邪をひくことすらない。病気になっている暇がないのだ。「締め切り健康法」と呼んでもいいかもしれない。ああ、締め切りよ、ありがとう（ほんとはありがたくないですけど…）。

何はともあれ、締め切りに追われているうちが花、なのかもしれないと思う今日この頃。皆さんもどうぞ締め切りをお楽しみください（でも、締め切りはつらいよね）。

締
め
切
り
は
し
ら
ん
よ

新人さん、 いらっしやい！

2013年度

2014年度

今回のお題 「春になれば」

- もしもお名前に漏れがあったらごめんなさい。
- イラストには、とくに深い意味はございません。

岡村一心堂病院

濱子 真有美



岡村一心堂病院 医療技術部 検査室の濱子真有美と申します。よろしくお願ひします。

今回、「春になったら。」というお題をいただき、色々考えたのですが、春という言葉から一番に連想することは、あのにつき杉の黄色い花粉達です。中学生の頃から春になったら花粉症に悩まされていた私は、やつらに襲われたら鏡検なんて無理なのでは？とビクビクしていたのですが・・・なんと言うことでしょう！今年は全く症状が出ません。

これは、完治したのか？今年がたまたまなのか？はたまたそれ以外の理由なのか？ずっと考えておりますが、答えが出ません。

しかし、今後細胞検査士として症例と向き合う場合は、診断という答えが出せるよう頑張りますので、ご指導よろしくお願い致します。

岡山市医師会総合メディカルセンター

江尻 守



岡山市医師会総合メディカルセンター 検査部 江尻 守です。よろしくお願ひいたします。長らく微生物検査をしておりましたが、病理部門に移動となったのを機に、何度も細胞検査士試験に挑戦しました。今回、細胞検査士の資格を取得することができました。その間、岡山細胞検査士会の皆様には、勉強会を開いていただいたり、標本を鏡検させていただいたり大変お世話になりました。ありがとうございました。

さて、「春になれば」のお題です。趣味の話です。春になれば、ぽかぽかした暖かい縁側でゆったりと長編小説を読みたいです。作家は、宮城谷昌光です。古代中国の大河小説が得意な作家です。わかるでしょうか、夏、

殷(商)、周、春秋戦国、秦、漢、三国志の時代です。わかるでしょうか、太公望、管仲、重耳、晏子、楽毅、孟嘗君、2~5巻の長編です。小説の広大な世界に入り込みあたかも主人公になったようにイメージをめぐらす、これには、春の暖かな縁側が一番です。一気に読みたいのですが、なかなか時間が取れず、登場人物の名前を忘れ、4巻ある小説の1巻ばかりを読み返している状況でした。今年こそは、春の縁側で4巻読破したいと思います。細胞検査士の受験勉強に時間を取られないのですから。



岡山市立市民病院

山根 由渡



はじめまして、岡山市立市民病院で働いている山根と申します。昨年は東京都がん健診センター細胞検査士養成所で勉強させて頂いてました。

春になったらというお題ですが、昨年まで学生でしたが、私はこの春からついに社会人として働き始めます。新境地でわからないことだらけですが、まずは1日でも早く仕事に慣れるよう日々頑張っていきたいです。また、細胞診の知識を深めていきたいです。短いですが、よろしくお願いたします。



岡山大学病院

原田 和恵



岡山大学病院病理部の原田和恵です。

昨年の12月、やっと細胞検査士資格認定試験に合格いたしました。これからも細胞診断の向上をめざして、一生懸命勉強を頑張りたいと思います。よろしくお願いたします。

<お題:春になれば>

春になったら、後樂園や運動公園の桜がとてもきれいなので、それらを見に行くのが好きです。暖かくなって、体も動かしやすくなるので、外で運動するのが楽しいです。



ファルコバイオシステムズ

片山 尚美



初めまして。ファルコバイオシステムズに勤務しております、片山尚美と申します。

一昨年の試験に合格し、晴れて細胞検査士になることができました。が、まだまだ学ぶことが多く、充実した日々を過ごしています。ルーチンを始めてみて、試験勉強とはまた別の鏡検スキルが必要なことがわかり、先輩方

に質問をして、1つ1つ身に付けている最中です。

そんな中で、息抜きとして、よくドライブに出かけます。どこに向かうでもなく、その辺をふらふらと走っています。基本的に乗り物が好きで、春になって気候が良くなるとバイクもいいなと思っていて、新たに購入するか考え中です。

これから仕事に精進していきますので、よろしくお願いいたします。

岡山済生会総合病院

野口 裕太郎



はじめまして。岡山済生会総合病院の野口と申します。細胞検査士の資格をとり、この会に入ることが出来ました。

趣味は、スポーツをすることです。休日はほとんど野球やソフトボールをしています。冬はシーズンオフなので、春になれば活動が始まります。仕事も趣味も頑張りますのでよろしくお願いいたします。

倉敷芸術科学大学

岩佐 貴仁



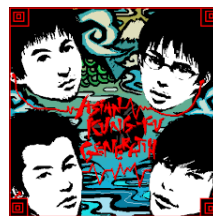
倉敷芸術科学大学大学院修士二年の岩佐貴仁です。

大学院では子宮体癌について研究をしています。研究は慣れないことばかりで苦勞が絶えませんが、その分学べることが多く楽しく大学院生活を送っています。

春といえば出会いと別れの季節ですね。たくさんの人と出会い、様々なことを学んでいきたいと思います。学会でお会いすることがあれば声をかけてもらえると嬉しいです。将来は大学院生活で学んだことを活かし細胞検査士として一生懸命頑張りたいと思います。今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

倉敷芸術科学大学

大西 崇文



初めまして、倉敷芸術科学大学大学院の大西崇文と申します。僕の好きなことは音楽を聴くことです。いろんなジャンルを聞きますが ASIAN KUNG-FU GENERATION、通称アジカンというバンドが特に好きです。5月の末にニューアルバムが発売されるので早速、予約しようと思っています。また、9月にはアルバムツアーで倉敷に来るので今からワクワクしています。バンドTとタオル買って、ワイワイ騒ぐのが楽しみです！そんな僕ですが普段は一応、まじめに研究に没頭する日々を過ごしています。学会等で

大きなのっぽの黒縁メガネを見かけたらぜひ声をかけてください！

倉敷芸術科学大学

高木 翔士



倉敷芸術科学大学大学院に通っています、高木と申します。大学院では PCR や免疫染色など、様々な研究を四苦八苦しながらこなしている毎日です。そんな私の楽しみは愛車とのドライブです。春の陽気の中、県内のドライブスポットを色々めぐりたいなと思っています。大学院修了後は、細胞検査士という資格を活かし、皆様のお役に立てるように日々精進していこうと思っていますので、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

倉敷芸術科学大学

小倉 千尋



はじめまして。倉敷芸術科学大学大学院生の小倉千尋と申します。春になれば!! ということでポカポカ陽気にまみれ、ひなたぼっこ~したいのですが、今年は春からアクティブに何か始めよう!!! と考えています。計画中の身で漠然としかしていませんが…(笑)。学生の立場で勉強不足が目立ちますが、将来立派な細胞診検査士になれるよう何事も一生懸命頑張ります。なにとぞご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

倉敷芸術科学大学

芝原 一樹



倉敷芸術科学大学大学院修士二年の芝原一樹です。

大学院では、甲状腺未分化癌についての研究を行ったり細胞診標本を見たりする日々を送っています。そんな苦しい日々の中私の息抜きは映画を見ることですが、最近はほとんど見る事ができていないため息が抜けていない状態が続いています。忙しい毎日ですが、残りの一年間、精一杯頑張っていこうと思います。在学中に細胞診断力を少しでも上げられるように細胞診標本のスクリーニングも継続していこうと思います。そんな私ですが、今後ともよろしくお願いいたします。

隅から隅まで、ずずずい~っと

よろしく御願ひ奉ります！



特別なエールをあなたにあげる
あったがいんだから～



他個紹介

岡山済生会総合病院

の巻



MASAE
YABUKI

矢吹 満佐江 さん

それでは済生会病院の重鎮、矢吹満佐江さんを紹介させていただきます。

矢吹さんが済生会に入社されたのは今から三十●年前、検査学校の実習・卒業研究からの関わりだと聞いていますので、相当な済生会愛をもっておられる方だと思われま

す。矢吹さんは、主に腎生検や皮膚科などの蛍光抗体を担当しながら、病理検査室のマネジメント業務に追われる日々で、次から次へと降りかかる難題に対して、我々の壁となり手を抜くことなく立ち向かい戦っています。

性格は、真面目(過ぎる)・慎重(過ぎる)・優しい(過ぎる)といった過ぎる面々は他施設の皆さんもご存知だとは思いますが、さらに凝り性な一面も加わります。今、新病院への移転事業が進んでおり、矢吹さんが Excel で作成した病理検査室の設計図面は素人のものとは思えないほどの出来栄で、病院の事務方からも共有スペースの設計データを共有したいとオファーを頂いたほどです。目標のイメージができると妥協・手抜きができない性格でもあります。

10年後、20年後の病理検査室をどうイメージしているのか我々にはわかりませんが、新病院が完成するまでに体調崩さぬよう頑張っていたきたいです。

by 山本弘基

●
今も変わらぬ、済生会愛。

【ご本人からのコメント】

確かに・・・エンジンがかかると最後まで突き進んでしまうところがあり、目的達成後はパワー急降下、といったこともしばしばです。

ここ数年は新病院の図面作製や建築・システム関係者との打ち合わせに時間を費やすことが多く、技師としてこれでよいのかと自問自答の日々ですが、若いスタッフが働きやすい環境を作っていきたいと思っています。

今も山本君から順に腎生検の特染や蛍光抗体法の所見付けまでを本格的にトライしてもらっていますが、移転後は遺伝子検査なども含め、皆が幅広く対応できる技師になって、「病理の技師でよかった」と思ってもらえたら何よりです。

そして20年後？の私は隣接のライフケアセンター（老人福祉施設）の窓から病院を眺めて、お茶をすすっていることでしょう。

♥ここでついでに『ごあいさつ』

長年技師数4名だった当院病理（編集部注：今を遡ること約20年前、本会報にて岡山済生会病院の方々の他己紹介を掲載させていただきました）もいつの間にか総勢8名となり、うち2名も細胞検査士を目指して頑張っております。微力ながら検査士会の活動にも貢献できるよう努力してまいりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。（by 矢吹）

谷 祥代 さん

谷さんは岡山大学出身で勤続6年が経過しました。谷さんといえば、まず思い浮かぶ言葉が「正確」「沈着冷静」「記憶力」「洞察力」・・・これは決してお世辞ではなく、日々感心させられることばかりです。例えば何か問題が生じた時など、その原因や解決方法を見いだすのはピカイチで、「さすが谷さん」と思わず言ってしまう。

また、日々5キロのウォーキングを黙々と続けるなど、粘り強さもあります。

かといって決してクールな訳ではなく、後輩達のこともしっかり見守っていてくれる優しいお姉さんでもあります。そして、珍しく慌てた時の谷さんはとても可愛いですよ。

そのため、2年前の結婚式では病理医の浜家先生が旦那様の上司の方々に「当院にとって貴重な人材のため、できれば転職の際には単身赴任で・・・」とお願いされたほどです。



SACHIYO
TANI

●ピカイチ、頼りの洞察力。

私とは親子ほど歳が離れていますが、かなり頼りにしています。これからの成長が楽しみです。

by 矢吹満佐江

【ご本人からのコメント】

過分すぎる紹介をありがとうございます。慌てたときの様子を見られていたとはお恥ずかしい限りです(笑)「親子ほど歳が離れている」とのことですが、それをまったく感じさせない矢吹さんの若さの秘訣は何なのか・・・うちの親との違いはいったいどこにあるのか・・・決してお世辞ではなく本当にそう思わずにはいられないのです。これからもよろしくお願いします。

清水 哲也 さん



清水さんは長年岡山済生会病院の病理検査室をひっぱってこられた方です。今では当院の細胞検査士の人数も増えてきましたが、10年程前までは人数が少ないなか細胞診に関わる全ての仕事を中心となり取り組んでこられました。

仕事中は常に誰にでも優しく温かい清水さん。かわいい女の子には特に優しく・・・もちろんかわいいわけではない私にもとても優しいです！！ただ優しいだけではなく、私たちの様子や状況をいつもよくみてくださっていて、何かあればそっとフォローをし、だめなところはしっかり指導してくださいます。

仕事以外の清水さんといえばスポーツです。学生時代から野球やソフトボールをされていて、技師会のソフトボール大会では今でも大活躍です。スポーツをする側だけではなく、ソフトボール協会でも運営側としても活動されています。それ以外にも消防団や地域の活動などたくさんのお仕事をされている清水さんは様々な方面の方と関わりがあり、付き合いも広いのでお店をたくさん知っていて、いつもおいしいお店を紹介してくださいます。

そんなステキな清水さん。これからも私たちのことをあたたかく見守ってくださいね！！

by 谷 祥代

【ご本人からのコメント】

過分な紹介ありがとうございます。谷さんは、とても素直で（だから嘘は言えない）優しく気の利く女性です。彼女をはじめとして当院

● 誰にでも優しく、温かく。

TETSUYA
SHIMIZU

の若い人達は、仕事、勉強、スポーツなど何事にも真面目に取り組む
頑張り屋さんです。

こんな彼らと今後も一緒に、頑張っていきたいと思います。

野口 裕太郎 さん

野口君は 87 年生まれで私の実の娘と同じ年であり、醤油顔の今どきのイケメンです。野口君といえばまずは野球でしょう。自らが地元
に野球チームを立ち上げており、監督、ピッチャー、キャッチャー、
ショート、外野と全てのポジションをこなせます。現在は済生会病院
のソフトボールチームの主将も務め、技師会主催のソフトボール大会
でもダイビングキャッチをするなど絵になる男です。他にも高校時代
はバトミントン部、就職してからはハーフマラソンにも挑戦している
スポーツマンです。

もちろん仕事に関してもテキパキこなし、病理以外の当直業務など
もスマートにこなしているのは言うまでもありません。やれば何でも
できてしまうので、最近友人の結婚式の余興で EXILE のダンスをマ
スターして盛り上げていたようです。男三兄弟の長男だけあって、後
輩や同僚の面倒見がよく頼りがいがあり、その一方で上司や先輩への
気遣いもでき弱点が見当たりません。

これから学会発表や検査士会の活動など、表舞台に出てくること
が増えると思いますが将来を楽しみにしています。

by 清水哲也

【ご本人からのコメント】

過分なご紹介ありがとうございます。かなり言い過ぎだと思います。
イケメンではないですが、野球は好きで今でもやってるので、ある
程度は自信持って出来ると言えます。

仕事は、まだまだ未熟なことが多いので、清水さんを見習って頑張
っていきます。これからもご指導よろしくお願ひします。

河田 晶子 さん

河田さんは前職の岡山県健康づくり財団より、6年前に岡山済生会

● 絵になる男、弱点なし。

YUTAROU
NOGUCHI



AKIKO
KAWATA

総合病院に電撃移籍してこられました。細胞検査士として仕事をこなすことはもちろんですが、超音波検査士としての資格も持っており病理検査だけでなく、週に2日は生理検査の仕事もこなしています。

仕事熱心な河田さんは、家庭もあり、お忙しいはずですが、休日には勉強会に積極的に参加して発表するなど、その姿勢は本当に尊敬します。そんな河田さんは仕事だけではなく、普段は僕たち若手にいろいろなことを教えてくれます。お勧めの本やテレビ、美味しいドレッシングの作り方、良いお店など多方面に及びます。せっかく勧められたのですが…本はまだ読んでいないので、近いうちに読みたいと思います。

僕が残業で一人にいるときには差し入れをしてくださったり、「お疲れ様でした」とLINEで連絡をしてくださったりと仕事に対する厳しさだけでなく、優しさも備えており見習うことが多いです。これからもご指導を、愛のムチを！よろしくお願いします。

by 野口裕太郎

【ご本人からのコメント】

野口先生、過分なご紹介ありがとうございました（笑）迅速当番を代わってもらうことも多くて助けてもらうことばかりなのに、こんな褒め殺しで困ってしまいます。また差し入れするからね！

小玉 亜梨奈 さん

小玉さんは就職して9年目のまだまだフレッシュなお嬢さんです。細胞検査士でありながら超音波検査士1年目の売り出し中検査技師です。小玉さんとの出会いは生理検査で表在超音波を教え始めたことがきっかけでした。同じ病理の技師として話が通じる部分が多く、乳腺疾患と超音波の話をどんどん理解してくれました。講習会でも一発で評価Aを取ってくる優秀さで、今後の成長がとても楽しみです。

プライベートでは旅行が趣味で時間ができたらフラッと海外へ出かけられていて、生理検査室に行くときよく「お土産を食べてください」と言われます。今までに旅行したのは、ハワイ、グアム、シンガポール、韓国、タイ、ベトナム、台湾と7ヶ国にも及びます。新婚旅行はヨーロッパ希望とのことですが、ファーストクラスで連れて行ってくれるイケメンを是非見つけてくださいね。これからも各地のお土産話やお土産を楽しみにしています。

by 河田晶子

●細胞検査士にして、超音波検査士。

●超音波検査士、売り出し中。



ARINA
KODAMA

【ご本人からのコメント】

とっても過分な紹介ありがとうございます。河田さんにこんなに褒めて頂けるなんて光栄です～★

表在超音波は病理との結び付きが濃いので、病理を基礎とした超音波の指導はとても理解しやすかったです。一発A判定も河田さんのおかげです。ありがとうございました!!

こういう組織像を反映して超音波ではこうなんだな～とか、河田さんとのそういう会話がすごく面白くて、いつも勉強になります。

まだまだひよっこですが、これからもどうぞ宜しくお願いします。

山本 弘基 さん

山本くんとは同期就職で、出会いは2次試験のグループ面接でした。その帰り道に「受かったらよろしくね～」と話したのを今でも覚えています。

就職してからも「年上だと思わなくていいよ」「小玉さんってO型でしょ?」と、話しやすい気さくなお兄さんという印象でした。偶然同じ病理に配属され、その歓迎会のときには、先生に勧められるままに冷酒を飲み続け、酔っぱらって帰ったこともあったなあ…と忘れかけていた思い出がいろいろ蘇ってきます。

そんな私達もこの春で就職して9年目、今や岡山細胞検査士会では副会長を務めるほどに大きく大きくなった山本くん。プライベートでも一昨年結婚し、公私ともに順調そうで羨ましい限りです。笑

今は病理と生理で部署は離れてしまいましたが、お互い中堅として頑張りどころです。だんだんと同期が減り寂しいですが、これからも頼れる同期としてよろしくね♪♪

by 小玉亜梨奈

【ご本人からのコメント】

そう言えば、就職試験の面接を一緒に受けたね。席も隣だったっけ? 2人同時に病理配属になったのは驚いたけど、ちょっと安心したのは覚えてます。冷酒飲み続けたのは覚えてないな。笑

細胞もエコーもみれる貴重な存在を目指して頑張ってください。
(頼りにならないけど一応年上の同期より)



HIROKI
YAMAMOTO

●頼れる同期は、岡山細胞検査士会副会長。



『増補復刻版 ビルマからの手紙』1995～1996

『新 ビルマからの手紙』1997～1998/2011

著者 アウンサンスーチー

訳者 土佐佳子・永井 浩

発行所 毎日新聞社

定価 本体1500円(税別)

増補復刻版・新とも

15年位前のある日曜日、たまたま開いた毎日新聞に「ビルマからの手紙」と題したコラムがありました。何やら特別版のような雰囲気があり、タイトルと挿絵にも心惹かれ読み始めたのですが、その文章の素晴らしさに感嘆しました。ビルマ(現在のミャンマー)の田舎の風景が、のびやかで、かつ繊細に描写され、その場に溢れる草木の香りや澄んだ空気までが伝わってくるよう。しかも、筆者の視線に何とも言えない優しさ、しいて言えば「慈愛に満ちた視線」、そして「気品」といったものまで感じさせられる。・いったいこの記者の名は？と初めて筆者を見て驚きました。何と「アウンサンスーチー」とあるではないですか。

「え～！あの、アウンサンスーチーさん？」・ほんとうに??

アウンサンスーチーさんはミャンマーの民主化運動の指導者であり、軍事政権下で自宅軟禁とされていたはず。今、日本の新聞にこのようなコラムを投稿することが可能なのだろうか？

この疑問は、さらに十数年過ぎた2013年、外務省招聘によるアウンサンスーチーさん来日時のスーチーフィーバー渦巻く中、書店に積まれた本書『ビルマからの手紙』を見て解けたのでした。

皆様こんにちは！ 今回ご案内するのは、民主化運動指導者アウンサンスーチーさんの手記『増補復刻版 ビルマからの手紙』と『新 ビルマからの手紙』の2冊です。

アウンサンスーチーさんは皆様よくご存じのごとく、「ビルマ独立の父」として崇拜されるアウンサン将軍(1947年暗殺)の長女であり、ミャンマー(ビルマ)の民主化運動の指導者、現在は最大民主化勢力である国民民主同盟(NLD)の党首です。1988年7月ビルマにクーデターによる軍事政権が発足しましたが、その直後から現在に至るまで非暴力による民主化・人権をめざす闘いを続けています。クーデターの起きる二ヶ月前に母親の見舞いのため英国より帰国していたスーチーさんは、英国の家族(英国人の夫と二人の息子)から引き離された状態のまま、祖国の民主化運動に人生を捧げます。その闘いは困難を極め14年以上を獄中あるいは自宅軟禁下で過ごしました。非暴力による民主化の働きが認められ1991年ノーベル平和賞が授与されました(記憶にある方も多いでしょうが、スーチーさんは当時、自宅軟禁下にあり授賞式には出席できませんでした)。2003年からつづいた3度目の軟禁から2010年ようやく解放され、2011年にテイセン大統領との会談が実現、2012年に国民民主同盟(NLD)の党首に選出され政治活動を精力的に始めています。

本書は毎日新聞に連載された『アウンサンスーチー ビルマからの手紙』をまとめたもので、『増補復刻版 ビルマからの手紙』は1995年～1996年、『新 ビルマからの手紙』は1997年～1998年と2011年に書かれたものです。

執筆の依頼は、1回目の自宅軟禁(6年間)が解かれて二ヶ月後の1995年9月、ラングーン(ヤンゴン)の自宅でのインタビューの折なされ承諾されたとのこと。

軍事圧政下でのスーチーさんへの執筆の依頼は危険と困難を伴うものでしたが、毎日新聞の記者で本書記者の一人でもある永井浩氏は、「あとがき」の中で企画にかけた思いと経緯を次のように語っています。

「私は、これまでのアジア報道の欠陥をおぎない、〈アジアの時代〉への正しい理解を少しでも深めるためにも、まず必要な

ことはビルマの動きに関するきちんとしたニュース素材を読者に提供することだと考えた。そのためには、民主化運動の背景となるビルマの社会、政治、経済、文化、歴史とアウンサンスーチーという指導者の素顔を知ることが不可欠である。そしてそれを現在のビルマにおいて可能にする最善の方法は、その体験、学識、人格、文才からいってアウンサンスーチーさん自身にエッセイを書いてもらうことだと判断した。」

『手紙』連載後の反響は非常に大きいものでした。

「『ザ・デイリー・マイニチ』(「英文毎日」)に掲載された原文は、インターネットを通じてビルマ情勢に関心を持つ世界の人々に流され、AP などの西側通信社は毎週一回の『手紙』の中からニュース性の高い情報を世界に配信しはじめた。タイの週刊誌、英字紙につづいて、米国最大の独立系ニュース・シンジケート「ユニバーサル・プレス・シンジケート」(UPS)を通じてアジア、欧州、米国、中南米の十数か国の新聞・雑誌に同時掲載されるようになった。」とあります。

一方、軍事政権は、この『手紙』をはじめとする、スーチーさんのさまざまなメッセージが世界に発信されるのを防ぐため圧力を加えつづけました。スーチーさんの親友で英国系ビルマ人実業家ジェームス・ニコルズ氏を、ファックスと電話の不法所持の容疑で逮捕。ニコルズ氏は間もなく獄死。スーチーさんのマスコミ担当個人秘書をつとめていたウー・エイウィンさんを民主化運動の関係者一斉逮捕で投獄。罪名も示されないまま刑務所に入れ続けました。

このような過酷な状況の中で綴られた『手紙』ですが、内容は決して眉間にしわを寄せて読むようなものではありません。

1995年、一回目の『手紙』は、6年に及ぶ自宅軟禁から解かれ間のない時期の初めての小旅行の様子が記されています。スーチーさん自宅のあるラングーンから約32キロ離れたカレン州にある信仰の聖地「ターマニャ山」を訪れ、その聖域を統治する聖なる師ウー・ウィナヤに敬意を表し祝福を受け、ターマニャ領地の中にある二つの学校を見学するのが目的。スーチーさん一行は古いパジェロを借りて出かけるのですが、修理

のゆきとどかない車のデコボコ道での強烈な反応もユーモラスで、初夏の緑溢れる景色とともにビルマの歴史、文化、人々の暮らしがのびやかな筆で綴られます。

「朝食の憂鬱」と題されたある日の『手紙』には、急激なインフレで一般の国民がどのように追い詰められていったかを、ささやかな朝食の食材価格を克明に示すことで鮮明に伝えています。しかし、そのような「憂鬱」な状況を伝えるにもスーチャーさんの筆は決して希望を失わないのが凄いのです。民主化運動の指導者であるとともに主婦であり母親でもあるスーチャーさんは、ビルマ庶民のごく一般的な朝食メニューの幾つかを、政情織り交ぜながら、手際良い作り方で愛情込めて解説しています。素朴で美味しそうな料理が出来上がる『手紙』に思わず引き込まれます。

もちろん、民主化運動のための厳しい闘いの日々も随所に綴られています。軍事政権による国民への不当な弾圧に対し、スーチャーさんの筆は鋭く明確に抗議し、また、拘束されている政治囚への影響を配慮すべき内容では、間接的表現で絶妙に問題を指摘します。

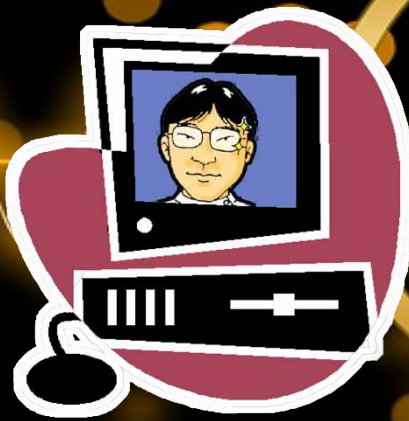
いずれにしても、スーチャーさんの『手紙』の魅力はスーチャーさんという優れた人格から滲み出るものであって、私の拙い筆では到底説明できるものではありません。ただ、この『手紙』を通し、スーチャーさんの視点や思い、ビルマに生きる人々の暮らしとその世界に触れたことは、私にとって貴重な出会いであったと思うのです。

永井氏による「あとがき」に「逆境のなかでも、世界にむかって『手紙』を書き続ける彼女のエネルギーと努力は、驚異的であると同時にわれわれにも勇気と元気をあたえずにはおかず、なぜ彼女に対するビルマ民衆の支持が衰えないばかりか逆に高まっていくのかの理由の一端をとき明かしてくれる。しかも、その文章は、政治に真正面から立ち向かいながら、幅広い教養としなやかな感性に裏打ちされたこまやかな人間と自然の観察、ユーモアとウィットを決して失わない。」と書かれているとおりです。

よかったら、ぜひお読み下さい。

by K子

ちょっと待ってちょっと待ってお兄さん
ワンダーランドってなんですか？



K's Presents

コンピュータ

2014年度版

ワンダーランド

「ゾクッと」は終わらない の巻

寒がりの私にはつらい冬が終わりかけ、少しずつ春が感じられる今日この頃ですが、みなさんいかがお過ごしでしょう？（くー締め切り守らんかい！）

PC 関連の比較的最近のニュースと言えば Microsoft から Windows 10 (Threshold スレシヨルド) が 2014 年 9 月 30 日に発表されました。発売は今年 (2015 年) の夏ぐらいという予想らしいです。今までの Windows では PC には「Windows」、タブレット PC には「Windows RT」、スマートフォンには「Windows phone」と分かれていましたが、Windows 10 ではすべて合体するらしいです。それから「8」で不評だったスタートボタンも復活するみたいです。それと、Windows 7 ユーザーまで無償でアップグレードできるようで、マイクロソフトの戦略的意気込みが感じられます。

ところで何で「9」を飛ばして「10」なのかは、「ぶっ飛んだ OS だから」とか、「95 や 98 と間違えるから」とか言われているみたいですが、真相はわかりません。ひょっとすると数え間違いかもしれません。

一方、アップル社はウェアラブルコンピュータとして腕時計型の端末「Apple Watch」を発表しました。スタイリッシュ

宮尾行雄の

ウンチク三昧

今回のお題

人体解剖と日本語



UNCHIKU-ZANMAI by Yukio Miyao

岡山県下の医療施設では年間に人体解剖が何体行われているのでしょうか(剖検輯報を見れば判るかも)。

山脇東洋がベスリングの解剖書を携えて宝暦4年(1754年)閏2月7日、京都の六角通りの獄舎で観臓しました。それが日本最初の人体解剖でした。1ヶ月後に慰霊祭を行い屍体に屈嘉の号を与えました。解剖慰霊祭の始まりだそうです。観臓時の記録を宝暦9年(1759年)に解剖図録「蔵志」として発行しました。

その後、杉田玄白、中川淳庵、前野良沢たちは明和8年(1771年)閏3月3日、江戸・千住・骨ヶ原(小塚原)で腑分けを見学。杉田、前野両氏は同じ版のクルムスのオランダ解剖書(ターヘルアナトミア)を持っていました。その後ターヘルアナトミアを訳し安永3年(1774年)『解体新書』として刊行しました。

そこまでは何となく知っており、在職最期の年に東京南千住小塚原刑場跡に見学に行き、仕事に区切りを付けました(夢に仕事が出そうでしたので)。

僕の故郷は岡山県北の鏡野町です。江戸時代は津山松平藩の領地でした。城下ではなく田舎の村です。津山郷土博物館が「津山松平藩町奉行日記」を刊行しています。津山洋学資料館の学芸員の方に、江戸時代の津山松平藩で開臓が行われ、「津山松平藩町奉行日記」に記されていることを伺いました。津山城下の伏見町の牢屋で寛政4年(1792年)閏10月19日、文化3年(1806年)閏10月25日、文化4年(1807年)閏12月25日の3回開臓が行われていました。田舎だと思っていた故郷でその時代の先端の学問があったとは、本当に驚きました。

しかし江戸時代に岡山池田藩で解剖がされたかどうかについては判りませんでした。

それにしても、解剖見学＝観臓、解剖＝腑分け＝開臓＝剖検と色々な名前と呼ばれており、日本語は覚えるのが大変ですね。

超個人的マンガ論

序

世にマンガ愛好家は多い。今やケータイの画面でもマンガを読める時代だから、「毎日欠かさず読んでます！」という方も決して少なくはないだろう。私自身はここ10年以上、ぱったりとマンガを買うこともなくなったし、ほとんど読まなくなってしまった。最近作（でもないか？）でいえば、子どもが買っていた『デス・ノート』を数冊、パラパラと眺めるように読んでみたのが最後かもしれない。そんな私だが、今も買い続け、集め続けているマンガが一つだけある。『ガラスの仮面』、さてこのタイトルを目にしてどの程度の方々が「ああ、なるほど、わかるわかる！」とうなずいてくださっただろうか（でも最近、深夜番組「アメトーーーク」の中で『ガラスの仮面』芸人というくりの一群が紹介されていたところを見ると、『ガラスの仮面』ってそんなにマイナーな存在ではないのかも…）。

さて、本稿の目指すところは、『ガラスの仮面』について熱く語り合える仲間を増やすことにある。その目的を果たすため、まずは『ガラスの仮面』をご存じない方に、『ガラスの仮面』とは何者であるかをお伝えしようと思う。また、もうひとつの対象として『ガラスの仮面』挫折者の方々を、再び『ガラスの仮面』ワールドに引き戻すよう努力してみたい。マンガで挫折、とはいささか奇異に聞こえるかもしれないが、（おそらくは）相当多数の人々が道半ばにして挫折していったことであろう。そのわけはこの後の展開を読み進むことでご理解いただけるはずである。

それじゃあ始めてみましょう、『ガラスの仮面』論、第1回。

『ガラスの仮面』概論

「そもそも『ガラスの仮面』っちゃあ何ね？」という、『ガラスの仮面』をまったくご存じない方にまず申し上げておきたいことは、『ガラスの仮面』は美内すずえ作の少女マンガである、ということである。「あ、じゃあいいや、俺、少女マンガに興味ないし。」と思われたあなた、ここで撤退すると損しますよ。『ガラスの仮面』を知らずに人生を終えるとするならば、それは人生の大いなる損失である（大げさではない！）。評論家であり論客である呉英智氏をして、空前絶後の傑作と言わしめた少女マンガ界の金字塔、それが『ガ

ラスの仮面』だ。

じゃ、まずをご存じない方のために、どんな絵柄だか、ご紹介がてら主な登場人物をちょっと描いてみる（図1参照）。いろいろ問題が生じるといけないので、ここではざっくりとした表現にとどめることにしよう。本気で描けば原本とほぼ同じレベルのものを描く自信はあるが（うそじゃありません）、今日のところはこのへんで手を打っておくので、ひとつ納得していただきたい。

どうです？ じつに昭和の少女マンガっぽいでしょう。星がキラキラしている大きな瞳。この絵柄に抵抗があってどうも読む気がしない、という声があることは重々承知している。『ガラスの仮面』にマイナス・ポイントがあるとすれば、そのひとつは間違いなくこの絵柄であろう。これについては、『ガラスの仮面』の愛好家諸氏も笑いのネタとしてしばしば取り上げている。具体的にどんなところがネタとされるのかは、論考を先に進めながら順次挿絵を挟みつつご紹介していくことにしよう。

絵柄以外にも、その登場人物設定、ストーリーと、『ガラスの仮面』には突っ込みどころが満載である。これらについても、追々、各論でご紹介していきたい。

ここまでのところで、『ガラスの仮面』ってギャグマンガ？』と思われた方がおられたとしたら、それは大きな間違いなので正しておきたい。『ガラスの仮面』は大河ドラマである。それも生半可な大河ではない。超ド級の大河である。だって、連載がスタートしたのが1976年、で、驚くべきことに、今も連載は続いている（！）わけだから、もうちょっとで40年を超えようとしているのだ。40年ですよ、40年。しかもストーリーマンガなのに。これはおそらくギネス級の記録ではないかと思うが、どうだろうか。しかしながら、『ガラスの仮面』が多くの挫折者を出した最も大きな原因はここにあった。40年の連載の途中で、しばしば、作者都合による休載期間があったことも、挫折者を増加させた大きな要因となったようだ。実際、筆者も一度、休載期間に気を抜いてしまい挫折しかかったことがあるが、同志の助けもあり、かろうじて踏みとどまることができた。おそらく挫折者の多くは、現在、姫川亜弓が失明の危機にあることをご存じないであろう。「えっ、何それ？」と思われた挫折者のみなさん、ほらほら、遠慮はいらないから『ガラスの仮面』ワールドに戻っていらっしやい。

本稿執筆時点で、単行本は49巻を数えている。単純に巻数だけ見れば、昨今人気であったNARUTOの72巻、ONE PEACEの76巻などに遠く及ばないわけだが、それにしても連載40年の歳月は重い。聞くところによると、ある時期から単行本発売にあたって、『花とゆめ』本誌に連載した原稿はすべて単行本用に描き直しているのだとか（そのこだわりの理由はよくわからないが…）。40年連載していれば軽く150巻くらい超えていても不思議はないのだが、

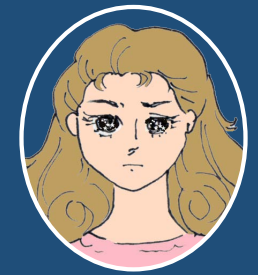
図1 登場人物



北島マヤ



速水真澄



姫川亜弓



月影千草

そんなところが49巻にとどまっている理由なのかもしれない。

『ガラスの仮面』を巡る周辺事情はこのくらいにして、その内容に踏み込んでいくことにしよう。まずは、簡単にストーリーを紹介してみたい。

【あらすじ】

主人公・北島マヤ(13歳)は何のとりえもないグズでのろまな、みそっかすな子(注:あまりにも酷評すぎる気がするが、実の母親の言葉だから仕方がない)だが、こと演技にだけは天才的な才能を持っていた。往年の名女優にして演劇の指導者でもある月影千草にその才能を見いだされ、演劇の世界に飛び込んだマヤは、ライバルの女優・姫川亜弓(注:映画監督を父に、国民的女優を母に持ち、美貌と財産に恵まれた完全無欠のお姫様の存在)と切磋琢磨しながら舞台経験を重ね、かつて月影千草が演じた演劇界の幻の名作『紅天女』(注:上演権を持つ月影千草に認められた女優ただ一人のみ演じることができる)を勝ち取るべく、演劇修行に励むのであった。大都芸能の社長である速水真澄はマヤの演技に魅かれ、それはやがて恋心へと発展するのだが、二人の恋路を邪魔する数々の試練が襲いかかる。恋の結末やいかに。マヤは『紅天女』を演じることができるのか!?

さて、説明を重ねれば重ねるほど、なんだかありきたりな少女マンガ像が読者諸氏のイメージとして広がっていくように感じるのは気のせいだろうか。『ガラスの仮面』は、たしかに少女マンガとして存在している。登場人物の見てくれから、ストーリーの概略まで、どこを見ても少女マンガ(それも昭和の)典型と言えそうだ。けれど、それは世を忍ぶ仮の姿。『ガラスの仮面』には、ただ少女マンガとして語られる以外の、山のように存在するツッコミどころを軽々と凌駕する何かが内在されている。間違いなく、その本質は少女マンガ的ロマンティシズムとは別のところにあると断言してもよい。

49巻を読み終えて振り返ってとき、少女マンガを読んだというよりもスポ根マンガを読んだような感慨が湧き上がる方もおられよう(『ガラスの仮面』に詳しい有識者たちの中には、少女マンガ界の『アストロ球団』と呼ぶ者もいる…)。なるほどそれも理解できなくはない。たとえば、病気で高熱を出した少女役をどうしてもうまく演じられない北島マヤは、一晩中雨に打たれてほんとに高熱を出し、その状態で舞台上がって演技をしたりなんかするのである。迫真の演技には違いないが、こりゃもう自殺行為である(このシーンがドラマ化された場合、「よい子はマネをしてはいけません」と、テロップが流れるであろう)。このほかにも、人形の役を演じ

るために体中に竹を巻き付けて関節の動きを制限し、竹が肌に刺さって流血、なんてシーンもある（この竹の器具は『巨人の星』における大リーグボール養成ギプスそのものであると誰もが思った）。これらはスポ根ものにおける『特訓』以外の何物でもない。まだまだ山のように特訓は続く。少女マンガ界の演劇スポ根と銘打ちたいところだが、これも本質からは少しずれている解釈であって、スポ根的要素はストーリーを盛り上げるための飾りに過ぎない。

他に類を見ない『ガラスの仮面』の特異性は、演劇を主題とした物語として成立しているところにある。劇中劇として登場人物たちが演じる芝居は、たとえばボクシングマンガで主人公とライバルがしのぎを削りながら徐々に大きなリングへと上り詰めていく過程に似ているかもしれない。1本の劇中劇はオムニバスの物語として完結しつつも、次の劇中劇へとつながっていく。ゆえに読み始めたが最後、途中で止まらなくなってしまうのである。『ガラスの仮面』マニアは、間違いなく何度か（何度も？）そういった底なし沼に沈んでいくような経験を重ねているに違いない。

私自身も一度、これで手痛い失敗を経験した。もうずいぶん前のこと、沖縄へ旅行に行くことになり朝7時過ぎのフライト便を予約した。ちょっと早起きになるが、自宅を朝5時に出発すれば問題なく間に合う時間である。そんなわけで旅行前日、早々に就寝しようと布団に入りながら（といっても深夜12頃ではあったが…）、なんとなく、わきに置いてある『ガラスの仮面』の1冊を手にとった。これが大失敗であった。何度も読んだ『ガラスの仮面』である。内容も知っている。ストーリーも、セリフも、承知している。なのに、止まらない。もう1冊、もう1冊と読み進むうち、ついに全巻（当時は最終巻が40巻あたりであったと思われる）読み切ってしまった。時、すでに午前3時をまわり、朝が近い。5時には出発しなければならないがあと2時間ある。少し仮眠をとってから…、これがまたまた大きな失敗であった。ここまで語れば、もうこの先は言わずともお分かりでしょう。そうです。目が覚めた時、まさに飛行場から予約の飛行機は飛び立っていたのであります。とほほほ。

（つづく）

参考文献

- 1)『ガラスの仮面』1～49巻 花とゆめコミックス 白泉社
- 2)『まんが夜話 Vol.9』キネマ旬報社
- 3)『ガラスの仮面』究極研究 椿山麗香(『ガラスの仮面』国際保存委員会委員長) 晋遊舎

**登場人物の核心に迫る！
次号、その本質を解き明かす！**

岡山細胞検査士会 平成26年度行事のまとめ



●総会・講演会

日時：平成26年4月27日（日）

場所：岡山大学医学部
Junko Fukutake Hall

講演 則松良明先生

「子宮内膜細胞診の現状と
これから-液状細胞診中心に-」

参加者 74人

第11回 教訓を含む症例を持ち寄って
ああでもないこうでもないといっしょに議論する
細胞症例検討会

～主催 岡山細胞検査士会～

絶対に
負けられない
症例がある!!

症例① 乳腺
岡山赤十字病院
症例② 胸水
岡山協立病院
症例③ リンパ節
川崎医科大学付属病院

アドバイザー
岡山大学病院
田中健夫 先生

開催日：平成26年6月22日（日）
8時45分～ 鏡検
9時30分～ プレゼンテーション

会場：岡山大学医学部保健学科棟3階

・CTクレジット申請中
・無料駐車券を準備しています

●精度管理講習会 参加者42人

岡山細胞検査士会 講演会 2014 入場無料

日時：平成26年9月23日（秋分の日）
9：00～12：00

場所：岡山大学医学部保健学科301講義室

9:00～
講演 / あなたの知らないマイクローム替刃の世界
フェザー安全剃刀株式会社
メディカル商品部 部長 座間 正一 氏

10:00～
講演 ② 甲状腺細胞診の実践と新しい報告様式
愛知県立大学
看護学部 病理学教授 越川 卓 先生

越川卓先生は、甲状腺をはじめとした穿刺細胞診の第一人者であり、第54回日本臨床細胞学会秋期大会では会長を務められます。
今回の貴重な講演、どうぞお聞き逃しなく！

● CTクレジット申請中です。細胞検査士カードをお持ちください。
● 駐車券を準備しております。

第12回教訓を含む症例を持ち寄って
ああでもない！こうでもない！と
みんなでいっしょに議論する細胞症例検討会

～主催 岡山細胞検査士会～

日時 平成27年1月25日（日）

時間 8時20分 ～ 鏡検
9時00分 ～ 講演

場所 岡山大学医学部保健学科棟301号

プログラム

講演 『新たな液状化細胞診(LBC)システム
Cellprepの応用と性能データについて』
演者：ロシュ・ダイアグノスティクス株式会社
病理システム部サイトロジーグループ 大橋健太 先生

症例① 粘膜下腫瘍 倉敷中央病院 和田裕貴 先生
解説 西日本病理研究所 松本智徳 先生
岡山大学病院 井上博文 先生

症例② 乳腺 岡山済生会総合病院 野口裕太郎 先生
解説 水島協同病院 岩藤絵里 先生 おおもと病院 山崎友美 先生

症例③ 胸水 ファルコバイオシステムズ 片山尚美 先生
解説 中国中央病院 羽原利幸 先生 川崎医科大学付属病院 米亮介 先生

CTクレジット申請中、無料駐車券も準備しています

●学術講演会 参加者75人

●精度管理講習会 参加者68人